

在スロバキア日本国大使館
政治・経済月報（2018年9月）

目 次

内 政

- ◆キスカ大統領による新党結成の野党への影響 2
- ◆若手ジャーナリスト殺害事件：容疑者の逮捕・起訴 2
- ◆政党支持率調査結果 3

外 政

- ◆ライチャーク第72回国連総会議長の任期終了 3

社 会

- ◆「スロバキア民族の宣言記念日」の制定 4
- ◆天野浩教授のスロバキア訪問 4

経 済

- ◆「アサヒ」傘下当地ビールメーカーによる追加投資 5
- ◆平均賃金の上昇 5
- ◆スロバキア・ポーランド間ガスパイプライン建設開始 6
- ◆「一帯一路」構想：中国による対欧州商品輸出 6
- ◆スロバキア中央銀行中期予測（第3四半期） 7
- ◆スロバキア中央銀行月報（9月） 8

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

内 政

◆キスカ大統領による新党結成の野党への影響（5日付経済新聞）

世論調査機関Focusの調査によると、仮にキスカ大統領が新党を設立した場合、25.1%の有権者が「キスカ新党」への投票を検討すると回答した。他方、「キスカ新党」への投票を検討していないと回答した人は66.5%に上っている（分からないと回答した人は9.3%）。

「キスカ新党」は、主に野党「普通の人々・独立した人達（OLaNO）」、「自由と連帯（SaS）」、「我々は家族（Sme rodina）」及び連立与党第3党「架け橋（Most-Hid）」等の支持者を奪う可能性がある。OLaNO支持者の50%、SaS支持者の42%、Sme rodina支持者の36%、Most-Hid支持者の30%、キリスト教民主運動（KDH）支持者の26%の他、新党「Progressive Slovakia（PS）」支持者の50%、新党「Spolu」支持者の64%が、「キスカ新党」への投票を検討すると回答した。

◆ジャーナリスト殺害事件：容疑者の逮捕・起訴（9月27日～10月1日）

9月27日、スロバキア警察は、スロバキア南西部コラーロヴォ（Kolarovo）市において、今年2月に発生したジャーナリスト・クツィアク氏及び婚約者殺害事件の容疑者8名を逮捕した。同28日には、スロバキア南西部コマルノ（Komarno）市において、新たに1名の女性を逮捕した。

検察は、9月27日に逮捕した8名のうち、元警察官のサボー（Mr. Tomas Szabo）容疑者、元軍人のマルチェク（Mr. Miroslav Marcek）容疑者及び元飲食店経営者のアンドルシュコー（Mr. Zolatan Andrusko）容疑者の3名を計画殺人等の疑いで、また28日に逮捕したイタリア語通訳のジュジョヴァー（Ms. Alena Zsuzsova）容疑者を殺人依頼等の疑いで起訴した。9月30日、バンスカー・ピストリツァの特別刑事裁判所は、起訴された4名の勾留を決定した。

10月1日、チジュナール検事総長等は会見を開き、「ジュジョヴァー容疑者が殺害を依頼し、サボー容疑者がクツィアク氏及び婚約者を銃撃した。マルチェク容疑者は運転手を務め、アンドルシュコー容疑者が仲介役であった。殺害の報酬は7万ユーロであった。犯人の目的はクツィアク氏の殺害で、婚約者のクシュニーロヴァー氏は偶然事件現場に居合わせていたため殺害された」と述べた。

警察は、9月27日にコラーロヴォ市で容疑者の自宅を捜索した際に、犯行に使われたと見られる銃器、自動車及び携帯電話を押収した旨発表した。また検察は、米国の衛星画像が容疑者逮捕の決め手となったという一部メディアの報道の内容を否定した。

検察は、ジャーナリスト・クツィアク氏の殺害を依頼したとして起訴された

イタリア語通訳のジュジョヴァー容疑者の背後に、殺害を依頼した別の人物がいる可能性を認めたが、誰が殺害を指示した主犯であるかは、現時点では明らかになっていない。クツィアク氏は、伊マフィア「ンドランゲタ」とスロバキアでビジネスを行うイタリア人実業家との関係や、スロバキア人実業家コチネル氏の脱税疑惑について調査していた。ジュジョヴァー容疑者は、スロバキア国内のイタリア系企業数社で勤務した経験があるが、同企業と伊マフィア「ンドランゲタ」とのつながりは示されていない。

ジュジョヴァー容疑者は、今年8月に小切手偽造の疑いで起訴され現在勾留中のスロバキア人実業家コチネル氏のために、通訳の仕事を行ったことがある。昨年9月、コチネル氏はクツィアク氏に対して、自身の脱税疑惑に関する調査を行わないよう脅迫する電話をかけていた。クツィアク氏は脅迫を受けたことを警察に通報したが、警察はクツィアク氏の訴えを受理しなかった。検察は、実業家コチネル氏が同事件に関与した可能性について、言及を避けている。

◆政党支持率調査結果（30日）

世論調査機関Focusによる8月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。最大与党Smer-SDの支持率は、今年2月のジャーナリスト殺害事件以降初めて上昇に転じた。

政党	Focus	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	22.4%(40)	28.3%
SaS（自由と連帯）	13.5%(24)	12.1%
OLaNO—Nova（普通の人々・独立した人達—新たな多数派）	10.3%(18)	8.6%
LSNS（我々のスロバキア）	10.0%(18)	8.0%
SNS（スロバキア国民党）	9.2%(16)	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	8.2%(15)	6.6%
KDH（キリスト教民主運動）	5.5%(10)	4.9%
Most-Hid（架け橋）	5.1%(9)	6.5%

外 政

◆ライチャーク第72回国連総会議長の任期終了（17日付外務・欧州問題省プレスリリース）

17日、第72回国連総会が閉会した。同日はライチャーク第72回国連総会議長（スロバキア外務・欧州問題相）の任期最終日であった。ライチャーク議長が優先事項として焦点を当てたのは、平和構築及び平和維持、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の全世界的な実施、公衆衛生上の脅威に

対する措置の強化，気候変動対策，水資源への安定的なアクセス等であった。

ライチャーク議長は任期中，70回以上の国連総会の会合で議長を務め，約300回のスピーチ，120回以上の国連関係者とのミーティング，440回以上の国連加盟国代表者（大統領26名，首相16名，副首相8名，大臣及び副大臣90名以上）との面会を実施。ハイレベル会合及びイベントを10回開催。外部のステークホルダー等との面会を80回以上実施。60回以上のインタビュー及びメディア関連活動に参加。20回の出張で28か国36か所を訪問した。

社 会

◆「スロバキア民族の宣言記念日」の制定（12日付TARS通信）

9月12日，スロバキア国会は，10月30日（火）を今年1度限りの祝日とする改正法案を可決した。同祝日は，ジリナ県マルティン市で「スロバキア民族の宣言（通称「マルティン宣言」）」が発出されてから100周年となることを記念している。同宣言は，スロバキアのハンガリー王国からの独立を事実上表明し，チェコと合同国家形成の礎を築くものであった。

（当館注：同祝日の制定に伴い，在スロバキア日本大使館は，新たに10月30日（火）を休館日とし，代わりに当初休館日としていた10月8日（月）を開館日とします。）

◆天野浩教授のスロバキア訪問（18日）

【教育・科学・研究・スポーツ省プレスリリース】

18日，ナフトマンノヴァー副教育相は，ノーベル物理学賞受賞者で，半導体工学の世界的な研究者である天野浩教授と会談を行った。2014年，天野教授は，青色LEDの研究によりノーベル物理学賞を受賞した。天野教授は教育省において，学生及び若者と対談した。

【コメニウス大学プレスリリース】

18日，ノーベル賞受賞者である天野浩教授がコメニウス大学を訪問し，LED電球に関する講義を行った。ミチエタ・コメニウス大学長は，天野教授に対し，コメニウス大学金メダルを授与した。半導体工学の分野で最も有名な日本人研究者の一人である天野教授は，青色LEDの研究により，赤崎勇及び中村修二教授とともに2014年にノーベル物理学賞を受賞した。

天野教授は講演の中で，「2020年までに，日本の街頭の70%以上が蛍光灯ランプからLEDランプに置き換わる予定であり，電気消費量が約7%減少する見込みである」と述べた。

天野教授を招聘したコメニウス大学数学・物理・情報学部のマサリク学部長

は「天野教授は研究熱心なことで知られている。天野教授の研究室は、週末も休日も正月も常に夜遅くまで明かりが灯っており、不夜城と呼ばれている」と紹介した。天野教授の妻は、コメニウス大学哲学部の日本語教師を務めている。

経 済

◆「アサヒ」傘下当地ビールメーカーによる追加投資（6日付経済新聞）

来年1月、東スロバキアのヴェルキー・シャリシュ市に生産拠点を置く、アサヒグループホールディングス傘下のPlzensky Prazdroj Slovensko社は、ビールの缶詰生産ラインを拡張するために210万ユーロの投資を行い、ビール生産能力を約33%引き上げる予定である。来年2月末には新生産ラインが稼働を開始し、同社の缶ビール年間生産量は7920万リットルに達する見込みである。また同社は、濾過機の近代化のために170万ユーロ、瓶詰めラインの交換のために60万ユーロの投資も検討しており、総投資額は440万ユーロに上ると見られている。同社は約650人を雇用しているが、今回の投資に伴う追加雇用を行う予定はない。

スロバキアでは、飲食店の生ビールよりも安く、瓶ビールよりも軽い、缶ビールの需要が高まっている。Plzensky Prazdroj Slovensko社の生産ラインの稼働率は90%を超えており、来年には95%に達する見通しである。既に同社は、過去3年間で300万ユーロを投資している。

（当館注：2017年3月、「アサヒ」はスロバキアのTopvar社を含む中東欧5か国のビールメーカーを買収した。今年夏、Topvar社は社名をPlzensky Prazdroj Slovensko社に変更した。）

◆平均賃金の上昇（10日付プラウダ紙）

スロバキア統計局によると、2018年第2四半期の平均名目賃金（月額）は、前年同期比で6.4%増加し、1004ユーロに達した。スロバキアの平均賃金（月額）が1000ユーロを超えるのは史上初めてである。

ベルナディチ・スロバキア統計局次長は「経済成長に伴い、労働市場が逼迫しており、その結果賃金上昇圧力が強まっている。企業は、労働力を維持、確保するために、主に給与を引き上げている。2018年第2四半期の賃金上昇率は、2009年の経済危機以降最も高い水準に達している」と述べた。第2四半期の失業率は6.6%（当館注：全体の求職者数に基づく数値。登録ベースの失業率は5%台。）まで下落しており、求人数は前年同期比で21%増加している。

ブラチスラバ県の平均名目賃金は1258ユーロに達しており、全国平均を上回っている。平均賃金が最も高い部門は金融・保険業で1991ユーロ、最

も低い部門は宿泊・飲食業で567ユーロとなっている。

◆スロバキア・ポーランド間ガスパイプライン建設開始（19日付プラウダ紙）

18日、ペレグリニ首相及びジガ経済相はヴェルケー・カプシャニ（Velke Kapusany）市（コシツェ県）を訪問し、スロバキア・ポーランド間の新ガスパイプライン起工式に出席した。同パイプラインが完成すれば、スロバキアのガス輸送網は、ポーランド北西部のシフィノウィシチェ港のLNGターミナル等と接続し、ロシアへのガス依存度を軽減することになる。新パイプラインは全長164kmでポーランド南東部のガスパイプラインに結びつけられる。輸送容量は年間57億立方メートルで、2021年に完成予定。

ジガ経済相は「1つだけのガス供給源に頼るのは、スロバキアにとってリスクとなり得る。中欧地域だけでなく、EU全体のガス供給先多様化につながるプロジェクトを支援していく」と述べた。

◆「一帯一路」構想：中国による対欧州商品輸出（26日付スメ紙）

中国は、安価な原料費、エネルギー費及び人件費のおかげで、世界最大の輸出国となっている。昨年の中国の対EU輸出額は3746億ユーロ、対米輸出は3731億ユーロに達した。中国の対スロバキア輸出額は52億ユーロであり、中国はスロバキアにとって、ドイツ、チェコに次いで3番目に輸入額が多い国となっている（当館注：スロバキア統計局によると、2017年のスロバキアの全輸入額に占める中国の割合は7.3%。独は16.5%、チェコは10.2%）。中国の対スロバキア主要輸出品目はテレビ等の受像器で、全体の16%（9億ユーロを占めている）。

2013年、習近平国家主席は、中国と欧州を結ぶ新シルクロード構想を発表し、以来中東欧諸国のインフラ整備に関心を示している。その象徴は、中国国営企業Coscolによるギリシャのピレウス港買収であった。中国の上海を出航した貨物船は、ジャカルタ、カルカッタ、コロンボ、ナイロビ等を経由し、22日間でピレウス港に運ばれる。ピレウス港に到着した貨物は、欧州における中国製品の集積地であるハンガリーのブダペストに4日間で輸送される。

中国は新シルクロード構想において、海上ルートだけでなく、鉄道を利用した陸上輸送も重視している。2017年11月、エールシェク交通・建設相は当地中国大使館関係者とともに、大連を出発しブラチスラバに到着した中国の貨物列車を出迎えた。エールシェク交通相等は「2018年上半期に週1本、下半期に週2本の中国貨物列車が、スロバキアまで運行される」と約束していたが、これまでに大連発の貨物列車は1本しか運行されていない。スロバキア貨物鉄道会社（ZSSK Cargo）のクンツォヴァー報道官は「貨物列車を運行して

いる中国企業は、中国政府からの助成を受けていない。現時点では、大連からブラチスラバへの貨物列車の運行は利益を出すことができず、持続可能な計画ではない」と説明した。ただし、スロバキアを經由し他の欧州諸国に向かう中国貨物列車は既に運行されている。

新シルクロードは、商品輸出だけでなく、脱税にも使われている。欧州不正対策局（OLAF）は、EU加盟国に対して、中国産商品を通関する際に、実際よりも低い価格を申告する手口で脱税が行われている旨指摘し、注意を呼びかけている。同様の手口の脱税は、2013～2014年にスロバキアでも確認されている。

◆スロバキア中央銀行中期予測（第3四半期）

1 GDP

2018年第2四半期のユーロ圏経済は前期比で0.4%成長した。経済成長は投資活動の増加により下支えされた。

2018年第2四半期のスロバキアの経済成長は、予測どおり前期比1.1%の伸びとなった。輸出と投資を成長の主な要因として、2018年のスロバキアの経済成長は4.0%と予測されている。自動車産業の生産能力拡張と外需の増加を反映し、経済成長率は、2019年に4.5%、2020年に4.0%、それぞれ上昇すると予測されている。

2 労働市場

比較的堅調な経済成長は、引き続き雇用の創出を下支えすると見られる。求人は、失業者、国外での労働から帰国したスロバキア人及び外国人労働者によって、また労働参加率の増加を通じて充足されると見られる。本年の雇用の伸びは2.1%となり、その後2019年、2020年にはそれぞれ1.5%、1.0%と緩和される見込みである。

全体の求職者数に基づく失業率は低下傾向が続くと見られ、2018年の予測値の約6.8%から、2019年には6.3%に低下し、2020年には更に下がって5.8%となる見込みである。

賃金の伸びは予測期間を通じて堅調であり、民間部門よりも公共部門において高くなると見られる。名目賃金の伸びは2018年第2四半期中期予測から上方修正され、2018年は6.8%、2019年は6.3%、2020年は5.8%となった。

3 物価

予測期間（2018－2020年）の消費者物価指数は、経済の景気循環と

生産コスト押し上げ要因の両方を反映すると見られる。予測期間を通じたサービス価格の急騰を筆頭に、経済と労働市場の過熱は需要牽引型インフレを下支えすると見られる。消費者物価指数は2018年に2.6%、2019年に2.7%、2020年に2.4%となる見通しである。

4 外部環境及び外需

スロバキアの輸出に関する外需の成長予測は第2四半期予測から下方修正され、2018年が4.2%（1.0%減）、2019年が4.5%（0.5%減）、2020年が4.0%（0.2%減）となった。

◆スロバキア中央銀行月報（9月）

1 GDP

2018年7月のスロバキアの主要経済指標は、国内自動車産業における生産量の減少を反映しており、鉱工業生産とスロバキアの主な輸出企業の輸出実績に対しマイナスの影響を与えた。しかし、自動車産業における生産量減少の影響は、電子製品生産を筆頭としたそれ以外の部門の業績によって相殺された。7月の鉱工業生産は前年同期比で2.6%増加した。

2 労働市場

月次データによると、7月の雇用の伸びは前年同期比で3.3%上昇した。季節調整後の全体の求職者数に基づく8月の失業率は、7月から僅かに0.02%低下して6.68%となった。労働力需要の高さは、求人数の多さ（約8万人）からも明らかである。

7月の平均賃金は大幅に上昇し、前年同期比9.2%増となった（第2四半期の平均伸び率は7.3%）。7月の平均賃金は991.2ユーロであった。

3 物価

8月の消費者物価指数は前年同期比で2.9%上昇し（7月は2.6%増）、予測を僅かに上回った。全体の価格水準は緩やかに上昇し、前月比0.2%増となった。石油及びディーゼル燃料価格の上昇は6月にピークを迎えたが、8月も高止まりし、前年同期比14%増となった。2018年の消費者物価指数は2.6%と予測されている。

4 貿易

7月の商品輸出は前年同期比で14.3%、輸入は15.7%それぞれ増加した。貿易赤字は2億100万ユーロであった。（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

